

2024年2月29日・3月1日 田園調布学園高等部2年生「保健」特別授業

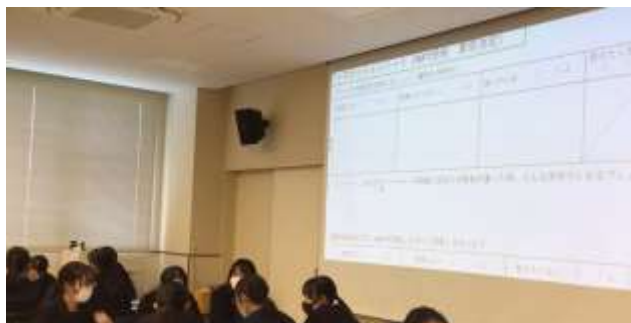
田園調布学園高等部2年生5クラス198名に“妊娠中の遺伝学的検査について考えてみよう”を実施しました。新規の実践校であり、プロジェクトとしては初の女子高での遺伝教育です。

養護教諭の島田先生のコーディネートで、保健の齊藤先生と打ち合わせ会議を5回実施しました。検討課題となったのは、「保健」の時間数が少ないため、2コマ連続の授業時間確保ができないこと、2年生のため進路によって生物（遺伝）の学習内容に差があること、女子高の特性をどのように活かすか/補うかなど、丁寧に議論を重ねました。またこれまでのプログラムは、本プロジェクト内の遺伝専門職と内容を検討してきましたが、今回はお茶の水女子大学の佐々木元子先生にもアドバイザーで参画していただきました。



今回の実践のキーワードは“教科横断的学習”です。打ち合わせでは、科学と生活がつながっている感覚を伝えたい、女性として生きるために役立つ知識を身に付けてほしいという先生方の強い思いをお聞きしました。このプログラムでは「遺伝学」の基礎的な知識を整理しておくことが重要であるため、生物の鷲尾先生との協働による事前学習を設定しました。

事前授業から1週間後にプロジェクトとして行う出前授業では、NIPT および確認検査としての羊水検査に関する学習とディスカッション、模擬検査受検の意思決定を中心にプログラムを構成しました。



ディスカッションでは、男子学生の意見を直接聞くことができないため、“夫や家族と意見が異なるときどのような気持ちになるか”、“検査受検に関して、夫に「あなたの意見を尊重する」といわれたらどんな気持ちになるか”について、想像しながら他の人の意見を聞くように設定しました。

授業評価のため、自由意思で依頼した授業後アンケートには、92名より回答していただきました。2回の授業より前に“出生前診断”という言葉聞いたことがある生徒は7割弱、NIPTについては9割が<聞いたことがない>の回答でした。

事前授業では、妊娠中の母体の変化や胎児の成長、NIPTの対象となる13・18・21トリソミーについて学習しました。この内容についても、ほとんどの<生徒が関心をもって聞けた>と回答しました。

教科横断授業について、生徒から以下のような意見がありました

- ・事前学習があったから、スムーズにディスカッションができた
- ・保健と生物だけでなく、自分の将来ともつながる学習だと感じた
- ・障害のある人は、わずかな可能性から生まれた貴重な存在だと感じた。一方で、自分の子どもとなると…不安が大きいことも自覚した。

- ・“勉強”と思っていた生物が、自分の人生に関わるものだと実感した
- ・子どもを産むことへの不安、リスクを強く感じた
- ・生物の内容が少し難しく感じた/もっと専門的な内容を聞きたかった

また、出前授業についても

- ・遺伝情報がなぜこんなに複雑なのか詳しく聞きたかった
- ・友人の意見は聞けたが、先生の考えも聞きたかった
- ・時間がたりない
- ・実際に NIPT を受検した夫婦の意見がきけてよかった

授業中に感じたことは、同じ女性として、共感できる意見が多かったことです。女性として、母として、どのように自分の人生を考えるかについて真剣に考える頼もしい部分と1つの話題について多方面から発展するディスカッションが、これまでの実践とひと味違った新鮮さがありました。

私が担当した部分でも、先生方が伝えたい内容として挙げた“女性として生きる”部分について、リプロダクティブヘルス/ライツやライフプランについて触れました。生徒から「家庭科とつながった」「倫理でも勉強した」との意見があり、生徒の思考の柔軟さで教科横断が発展したことを感じました。

5クラスの授業を、実践校の多くの先生に参観していただき、改善に向けた様々な示唆を頂きました。授業評価アンケートの意見と合わせて、担当の先生方と一緒に、この授業を育てていきたいと思います。新たなチャレンジの機会を作って頂き、ありがとうございました。



文責：森藤 香奈子